

The 37th Annual Meeting of Japanese Association for Humanistic Psychology

日本人間性心理学会 第37回大会

プログラム・発表論文集

会期 2018年9月14日(金)～16日(日)

会場 人間環境大学 岡崎キャンパス
(〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2)

後援 愛知県教育委員会、岡崎市教育委員会、
名古屋市教育委員会

人間性と“いのち・こころ・環境”



The 37th Annual Meeting of Japanese Association for Humanistic Psychology

日本人間性心理学会 第37回大会

プログラム・発表論文集

人間性と“いのち・こころ・環境”

会期

2018年9月14日(金)～16日(日)

会場

人間環境大学 岡崎キャンパス

(〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2)

後援

愛知県教育委員会、岡崎市教育委員会、
名古屋市教育委員会

INDEX

ご挨拶	1
日本人間性心理学会 歴代大会開催一覧	2
日本人間性心理学会第37回大会 開催概要	3
会場へのアクセス	4
学内案内図	5
大会日程	9
参加者の皆さまへのご案内	10
座長の先生方へのご案内	13
研究発表者へのご案内	14
奨励賞受賞記念講演 理事会・準備委員会合同企画(公開講演会)	15
ランチョンセミナー	16
ワークショップ一覧	17
口頭発表一覧	18
ポスター発表一覧	23
自主企画一覧	25
発表論文集	
奨励賞受賞記念講演	28
ワークショップ	30
口頭発表Ⅰ	40
口頭発表Ⅱ	46
口頭発表Ⅲ	52
口頭発表Ⅳ	58
口頭発表Ⅴ	65
ポスター発表	72
自主企画	94

ご 挨拶

日本人間性心理学会第37回大会

大会準備委員長 伊藤 義美

事務局 長 三後 美紀

事務局 次長 石田 妙美

このたび日本人間性心理学会第37回大会が、2018年(平成30年)9月14日(金)～16日(日)に人間環境大学(University of Human Environments, UHE)の岡崎キャンパスにおいて開催されることになりました。本学は平成12年(2000年)4月に開学した比較的新しい大学ですが、大会開催という大役が回ってきたことを大変光栄に思っています。

本学の構想を練り開学に携わったのは、哲学者の竹市 明弘氏と梅原 猛氏、そして臨床心理学者の河合 隼雄氏です。大学での学びの課題として、人間と環境をキーワードに「人間の全体性を再建する道を求める」という理念が導き出されました。「自然と社会の人間環境」「こころの精神環境」「歴史・文化環境」という3つの環境を一体化して教育することで全体性を再建することをめざしています。現在、3学部4学科(学部：人間環境学部・2看護学部、学科：心理学科・環境科学科・2看護学科)と2大学院(人間環境学研究科と看護学研究科)があります。「いのち・こころ・環境の未来を創造する大学」を高らかに謳っています。

岡崎キャンパスは、緑と自然に恵まれた小高い山頂にあり、教育や研究に適した静穏な環境にあります。このキャンパスに人間環境学部と大学院人間環境学研究科があり、特に附属施設の臨床心理相談室を有して心理臨床実践活動に精励し、三河地域のこころの健康の回復・促進を支援して地域社会に貢献しています。

第37回大会のテーマを本学の理念にも通じる『人間性と“いのち・こころ・環境”』としました。斎藤 環先生(筑波大学大学院)による公開講演会をはじめ、研究発表、自主企画、奨励賞受賞記念講演、ワークショップ、総会、懇親会などが予定されています。本大会に関するプログラムや情報については、大会ウェブサイト <http://www.2018jhpc.jp.org/> をご覧になって確認してください。

人間環境大学人間環境学部・人間環境学研究科の教員などや愛知県・名古屋市の学会員によって大会準備委員会を組織し、多くの皆様に参加いただき、充実した大会になるよう準備してきています。岡崎は、徳川家康公生誕の地であり、家康公ゆかりの寺院や史跡が数多くあります。大会の前後に岡崎の歴史や文化にも触れていただければ幸いです。

多くの会員の皆様に大会に参加していただくようお願い申し上げます。9月に皆様にお会いできることを準備委員一同楽しみにしています。

2018年7月吉日

日本人間性心理学会 歴代大会一覧表

回	日程	会場	大会長*・準備委員長	事務局長・次長*
1	1982年7月10日～11日	京都女子大学	畠瀬 稔	
2	1983年9月10日～11日	YMCA アジア青少年センター	水島 恵一	
3	1984年10月15日～16日	名古屋大学	村上 英治	
4	1985年10月19日～20日	日本女子大学	杉溪 一言	
5	1986年9月27日～28日	大阪大学人間科学部	梶田 叡一	
6	1987年9月11日～13日	法輪閣、団参会館	恩田 彰	星野 命
7	1988年9月1日～4日	明治学院大学横浜校舎	神保 信一	
8	1989年9月2日～5日	龍谷大学深草校舎	西光 義敏	畠瀬 直子
9	1990年9月6日～9日	東京家政大学狭山校舎	橋口 英俊	
10	1991年11月14日～17日	福岡大学セミナーハウス、九州大学教養部	村山 正治	野島 一彦
11	1992年11月5日～8日	東京大学山上校舎・安田講堂	見藤 隆子	広瀬 寛子
12	1993年9月2日～5日	大阪市立大学、大阪女学院短期大学	倉戸 ヨシヤ	倉戸 由紀子
13	1994年9月15日～18日	東京農業大学、文化服装学院	岸田 博	清水 幹夫
14	1995年9月14日～17日	愛媛大学教育学部、子規記念博物館	福井 康之	
15	1996年9月13日～16日	名古屋大学情報文化学部、大学院人間情報学研究科	伊藤 義美	
16	1997年9月12日～15日	文教大学越谷校舎	水島 恵一	上杉 喬
17	1998年9月12日～15日	追手門学院大学	小花和 昭介	井上 知子
18	1999年10月9日～11日	京都文教大学	越智 浩二郎*・林 昭仁	
19	2000年9月29日～10月1日	長崎純心大学	児島 達美*・大野 弘之	
20	2001年8月31日～9月3日	札幌学院大学	滝沢 広忠	
21	2002年9月20日～23日	神戸女学院大学	池見 陽	古今堂 紘
22	2003年7月19日～21日	山梨英和大学	林 昭仁*・駒米 勝利	鎌田 誠
23	2004年9月3日～5日	文教大学越谷校舎	上杉 喬*・秋山 胖	渡邊 忠
24	2005年9月23日～25日	九州大学箱崎地区文系キャンパス	野島 一彦	吉良 安之
25	2006年11月3日～5日	愛知学院大学日進キャンパス	池田 豊應*	石川 雅健
26	2007年11月23日～25日	仁愛大学	福井 康之*・駒米 勝利	鎌田 道彦
27	2008年8月1日～3日	関西大学千里山キャンパス	中田 行重	
28	2009年8月28日～30日	法政大学多摩キャンパス	清水 幹夫	
29	2010年9月24日～28日	熊本大学	藤中 隆久	
30	2011年10月8日～10日	愛知教育大学	原口 芳明	
31	2012年9月21日～23日	宇部フロンティア大学	酒木 保	小山 典子
32	2013年9月14日～16日	大正大学	日笠 摩子	青木 聡
33	2014年10月11日～13日	南山大学	津村 俊充	中村 和彦
34	2015年9月12日～14日	聖カタリナ大学	坂原 明	森平 准次
35	2016年8月26日～29日	九州産業大学	三國 牧子	
36	2017年9月8日～10日	東海学園大学名古屋キャンパス	石田 妙美	大島 利伸
37	2018年9月14日～16日	人間環境大学岡崎キャンパス	伊藤 義美	三後 美紀 石田 妙美*

日本人間性心理学会第37回大会 開催概要

テーマ

「人間性と“いのち・こころ・環境”」

会 期 2018年9月14日(金)～16日(日)
9月15日 理事会 開催
9月16日 公開講演会(一般無料) 開催

会 場 人間環境大学 岡崎キャンパス
(〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2)

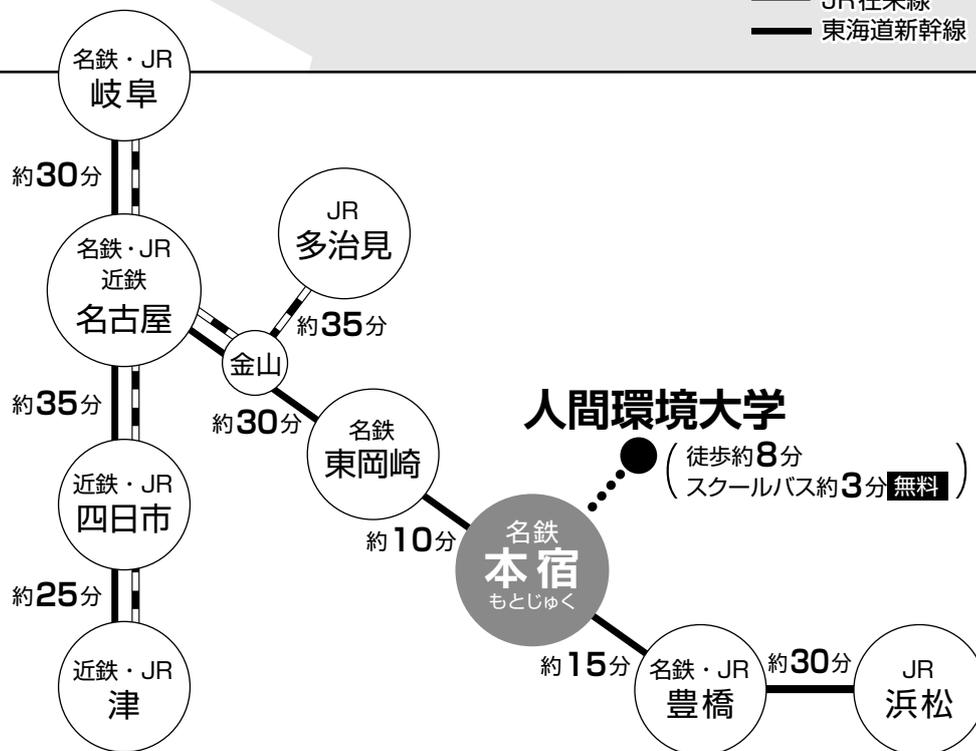
大会 HP <http://www.2018jhpc.jp.org/>

準備委員 準備委員長 伊藤 義美
事務局長 三後 美紀
事務局次長 石田 妙美
準備委員 石川 雅健 大島 利伸 小島あかね
坂本 真也 佐竹 一予 猿田 実和
高沢 佳司 高瀬加容子 高橋 蔵人
田中 史子 柘植 順子 西山めぐみ
吉武 久美 米澤由実子 渡辺 雄三
和田由美子 渡津 恵子 山下 陽平

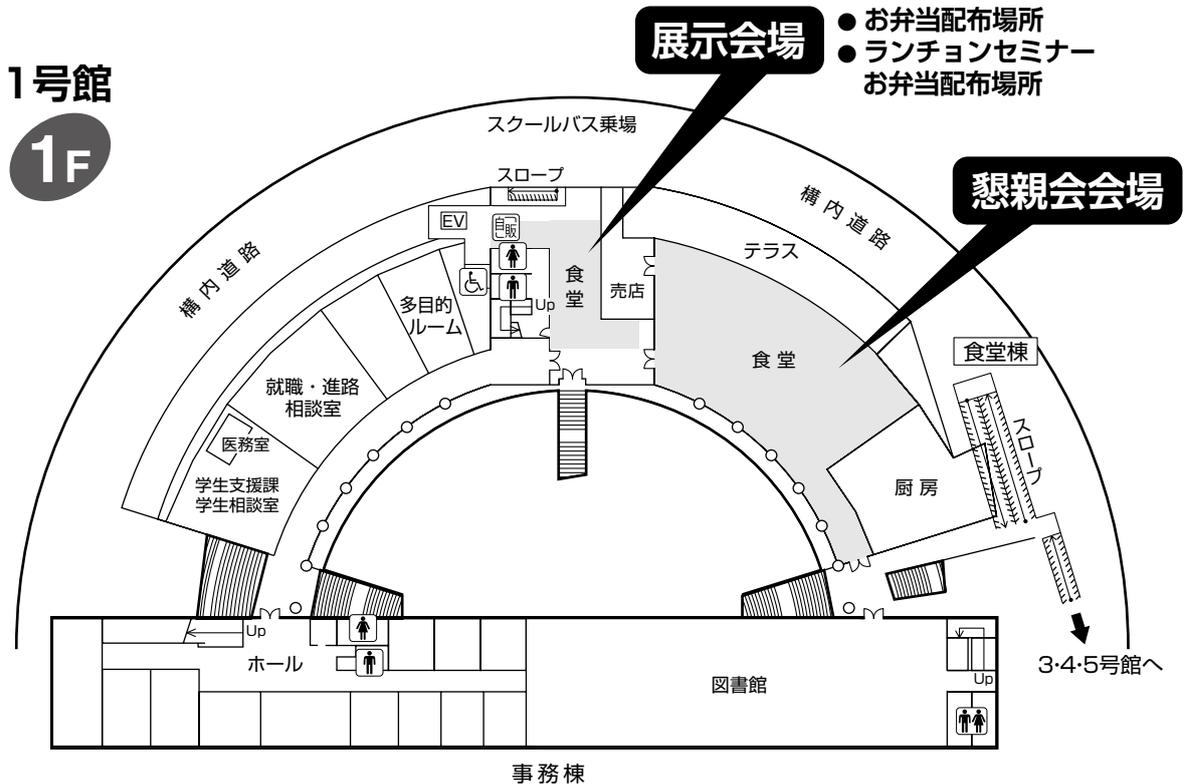
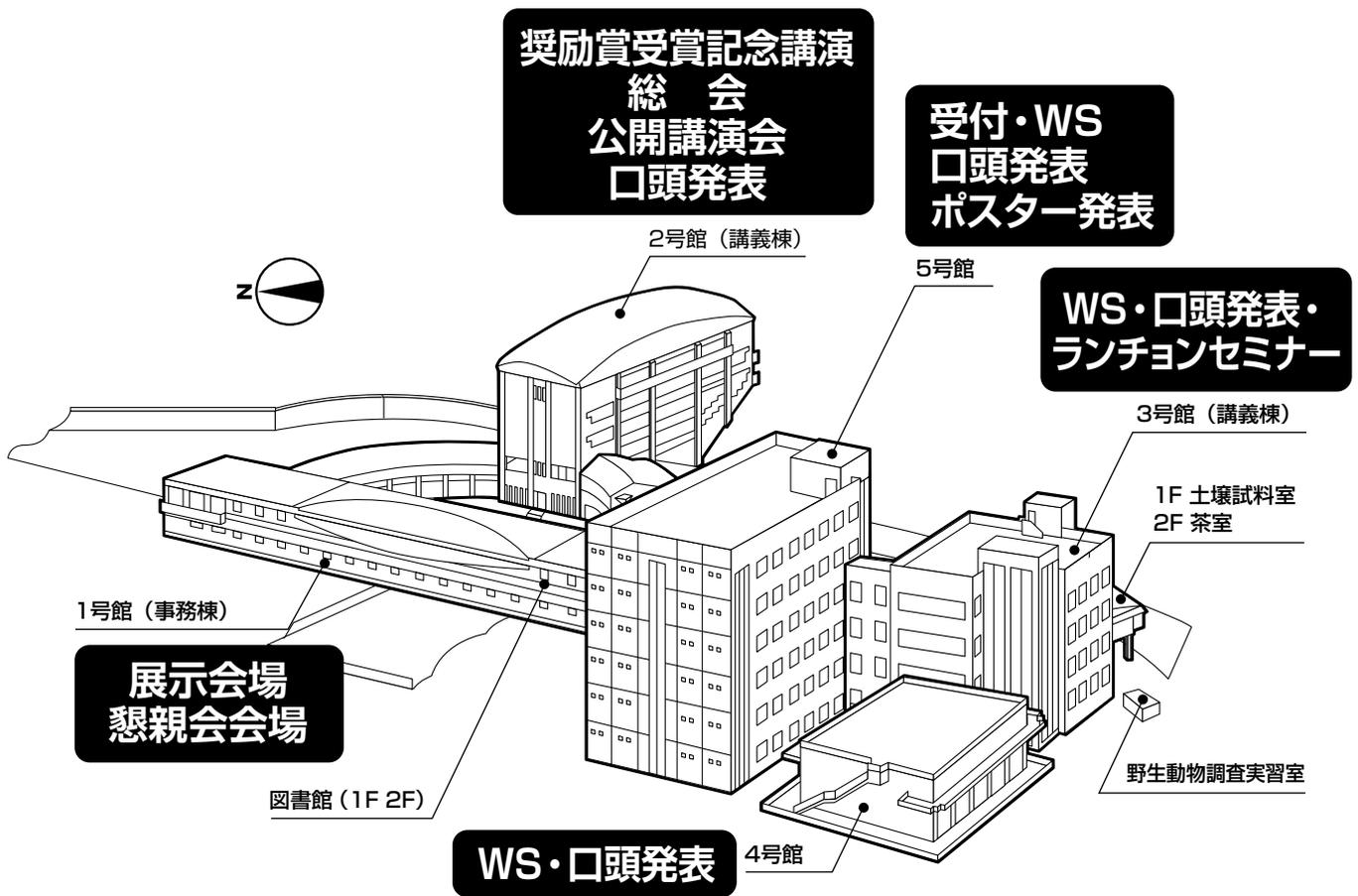
大会日程 9月14日(金) 10:30～16:30 ワークショップ
17:00～19:00 自主企画
9月15日(土) 9:30～17:20 講演・研究発表
17:30～19:00 懇親会
9月16日(日) 9:30～12:10 研究発表
13:20～14:50 公開講演会
(詳細は「大会日程」のページをご覧ください)

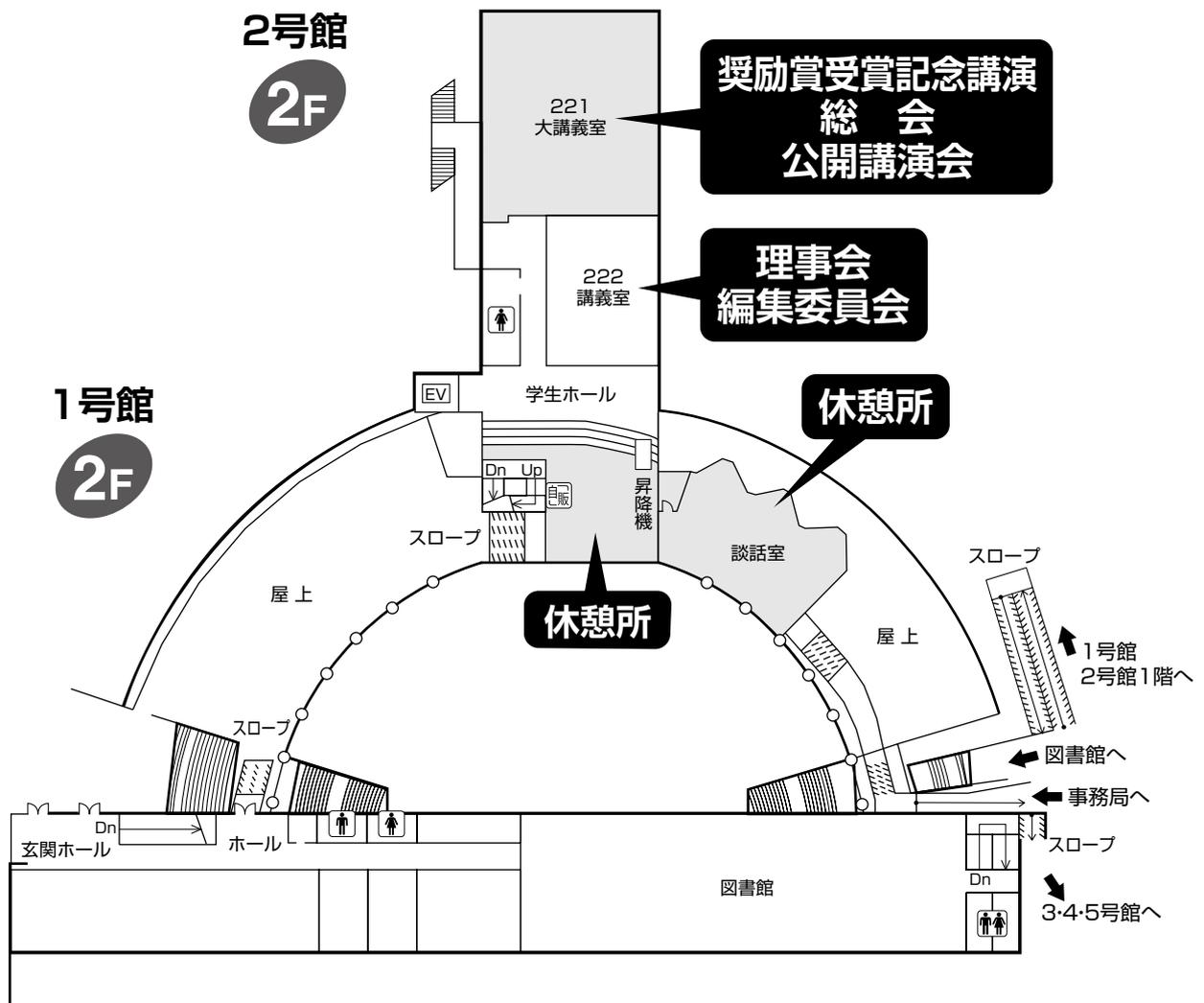
後 援 愛知県教育委員会
岡崎市教育委員会
名古屋市教育委員会

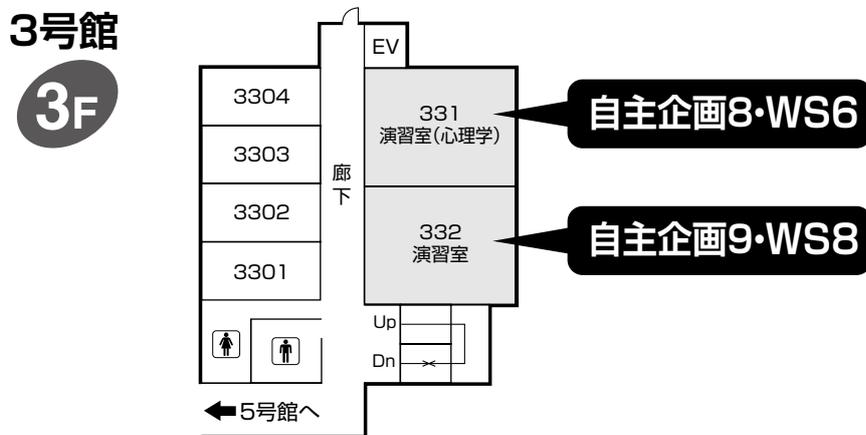
会場へのアクセス



学内案内図

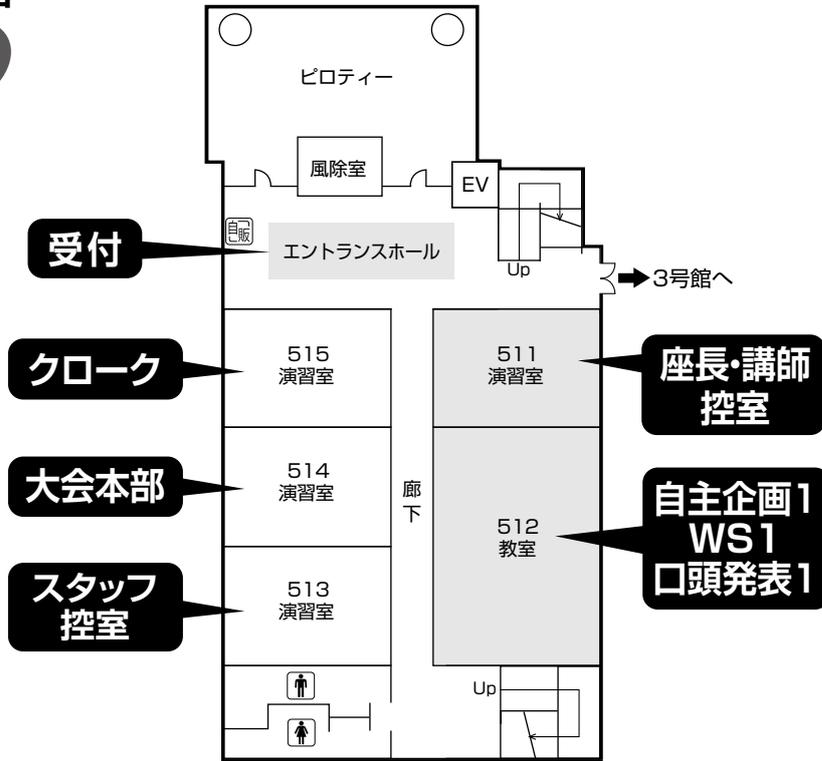






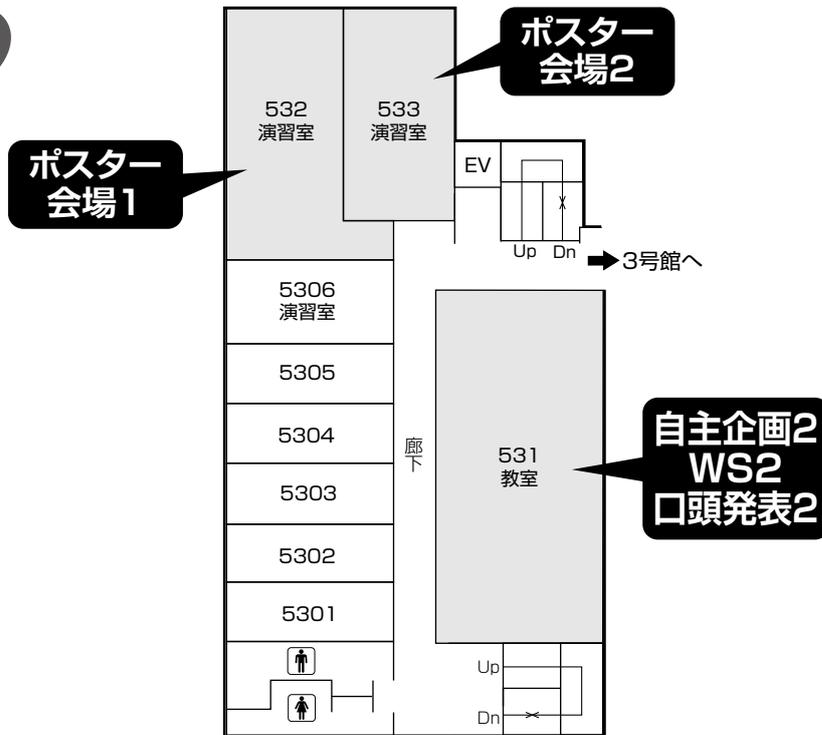
5号館

1F



5号館

3F



大会日程

	9月14日金	9月15日土	9月16日日
9:00		9:00~ 受付	9:00~ 受付
10:00	10:00~ 受付	9:30~11:00 口頭発表 I	9:30~10:30 口頭発表 IV
11:00	10:30~16:30 (内1時間の休憩を含む) ワークショップ	11:10~12:10 奨励賞受賞 記念講演	10:40~12:10 口頭発表 V
12:00		11:10~12:10 口頭発表 II	
13:00	お弁当配布時間 12:00~13:00 配布場所 1号館1階 展示会場	12:20~13:20 ランチョン セミナー	12:20~13:20 理事会
14:00		13:30~14:30 総 会	12:20~13:20 昼 食
15:00		14:40~15:40 ポスター発表	13:20~14:50 理事会・準備委員会 合同企画 (公開講演会)
16:00		15:50~17:20 口頭発表 III	14:50~ クロージング
17:00	17:00~19:00 自主企画	15:50 ┆ 17:20 編集委員会	
18:00		17:30~19:00 懇 親 会 (会場：食堂)	
19:00			

参加者の皆さまへのご案内

■参加受付

9月14日(金)～16日(日) 期間中共通

【受付場所】

5号館エントランスホール

【受付開始時間】

9月14日(金) 10:00～

15日(土) 9:00～

16日(日) 9:00～

【予約参加の方】 ※ワークショップ、大会共に、参加証の事前送付はありません。

- 9月14日(金)ワークショップ当日受付にお立ち寄りください。参加証をお渡しします。
- 9月15日(土)または16日(日)から大会へ参加の方は、参加初日受付にお立ち寄りください。参加証をお渡しします。

【当日参加の方】

- 必ず受付にて参加手続きをお願いいたします。参加証を受け取ったのち、ワークショップおよび大会にご参加ください。

【当日参加費】

- ワークショップ参加費
正会員・準会員 8,000円 臨時会員(非会員) 9,000円 学部学生 4,000円
- 大会参加費(論文集1冊分を含む)
正会員・準会員 10,000円 臨時会員(非会員) 12,000円 学部学生 5,000円

【発表演文集の追加購入】

希望される方は、受付でご購入ください。1冊3,000円です。

■ランチョンセミナー(事前受付)

各会場先着順50名(8月30日までに大会ホームページにてお申し込みください)

【開催日時】 9月15日(土) 12:20～13:20

軽食付き：無料

【会場】 ランチョンセミナー1 4号館1階413教室

ランチョンセミナー2 4号館1階412教室

ランチョンセミナー3 3号館1階311教室

お弁当配布場所：1号館1階 展示会場

配布時間：9月15日(土) 12:00～

*予約されたコースの教室へ入場してください。

■懇親会について

【日 時】 9月15日(土) 17:30～19:00

【場 所】 1号館1階 食堂

【申し込み】 8月17日(金)までは予約会費です。
〈予約会費〉 2,000円

*当日参加ご希望の方

9月15日(土) 17:30までに、受付(5号館エントランスホール)でお申し込みください。
〈当日会費〉 2,500円

*必ず参加証を下げてください。

*懇親会終了後、大会会場より本宿駅までの無料送迎バスを準備します。

■クローク

必ず、時間内にお引き取りをお願いします。貴重品はお預かりできません。

【場 所】 5号館1階 515教室

【開設時間】 9月14日(金) 10:00～19:15
15日(土) 9:00～19:15
16日(日) 9:00～15:15

■大会本部

【場 所】 5号館1階 514教室

*大会スタッフ・大会準備委員が待機しております。何かありましたらお尋ねください。

■Wi-Fiの利用

学内でWi-Fiは1号館1階 展示会場、1号館2階 休憩所にてご利用いただけます。

■食事・休憩

*学生食堂、学内コンビニは学会開催中、営業していません。

*空き教室で昼食をとることができます。

〈お弁当前予約の方〉

配布場所：1号館1階 展示会場(12:00から13:00までの間にお受け取りください。)

【休 憩】 1号館2階 休憩所をご利用ください。

大会期間中は、1号館1階にてドリンクサービスを実施します。

■託児申し込み

8月17日までに大会準備委員会事務局(2018jhpc@gmail.com)へ申し込まれた方は、会期中、託児サービスを利用できます。詳細は、大会 HP (<http://www.2018jhpc.jp/>)でご確認ください。

■ お願い

* 大会期間中、学内は禁煙です。喫煙場所はございません。

■ 書籍販売・展示

1号館1階 展示会場にて、展示等を行っております。是非ご利用ください。

■ その他の注意事項

大学までは公共交通機関をご利用ください。名鉄本宿駅-人間環境大学は、スクールバスをご利用ください(無料)。スクールバス運行表は大会 HP (<http://www.2018jhpc.jp/>) および人間環境大学 HP (<https://www.uhe.ac.jp/>) に掲載予定です。

■ 学会総会のご案内

【日 時】 9月15日(土) 13:30~14:30

【場 所】 2号館2階 221教室

* 総会の時間内に学会賞・奨励賞及び名誉会員の表彰も行われる予定です。

■ 臨床心理士継続研修の申請手続き

大会参加証や参加費等の領収証(コピー可)が、大会参加の証明として使用できます。大切に保管して、各自で申請してください。

■ 大会事務局の連絡先

日本人間性心理学会 第37回大会準備委員会

〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2

人間環境大学 岡崎キャンパス 伊藤義美研究室

e-mail: 2018jhpc@gmail.com

FAX: 052-801-7061 (東海学園大学 石田妙美研究室)

大会ウェブサイト <http://www.2018jhpc.jp/>

* 大会準備委員会へのご連絡は、メールでお願いいたします。

座長の先生方へのご案内

■進行について

- 座長の仕事は、司会進行、発表者とフロアのディスカッションのファシリテート、コメント等です。事前に発表者と打ち合わせをして、ご自分のスタイルでお役をおつとめください。滞りのない進行をお願いします。
- 担当の研究発表の30分前までに、総合受付の座長受付に必ずお立ちよりください。出席確認をさせていただきます。その後セッション開始の5分前までに各会場の次座長席に、ご着席ください。
- 時間になりましたら、セッションの開始をお願いいたします。
- 発表前に、座長から携帯電話の使用禁止、発表の録音の禁止について、アナウンス、確認をお願いします。
- 時間内に発表が終わるようにご協力のほど、なにとぞよろしく願いいたします。
- 諸事情により、万一座長を務めることができなくなった場合には、第37回大会準備委員会事務局(2018jhpc@gmail.com)までご連絡ください。
- 座長の先生方には座長ご担当日に昼食をご用意しています。11:30以降に5号館1階511教室(座長・講師控室)にお越しください。

研究発表者へのご案内

■ 発表時間について

- 全ての発表者は、発表時間と発表会場を確認し、遅れないようにしてください。

■ 配布資料について

- 配布資料は必ず自分で作成し、発表日、発表教室、題目、発表者氏名を必ずご記入の上、必要部数を印刷して持ってきてください。
- 配布資料は、開始時に各教室の会場係へお渡しください。
- 事例研究の配布資料は、必ず発表者が回収し、責任をもって処分してください。
- 大会当日のデータ変更・増刷は、事務局では受け付けていません。なお、学内にはご利用できるコピー機はありません。

■ 発表機材について

- 発表時に PC を利用される方は、PC は各発表者でご持参ください。
- 持ち込み PC との接続は RGB 端子 (VGA15 ピン) です。
- 発表時の PC 操作は、発表者ご自身で行ってください。
- 発表開始までに、各教室の会場係に発表機材の使用を申し出て、動作確認をしてください。
- 発表機材の動作不良の場合に備えて、配布資料もご用意ください。また、念のため、発表用のファイルは、USB 等のリムーバブルメディアにバックアップをしてお持ちください。

■ 座長との打ち合わせ

- 論文集以外に配布資料がある場合は、事前に担当座長に資料をお送りください。

■ ポスター発表について

- ポスター発表は、9月15日(土)のみ、会場は5号館3階 532教室・533教室です。
- 責任在席時間は60分です。指定された時間の間は、必ずポスター発表会場のポスターの前に待機して、参加者とディスカッションをしてください。指定された時間以外は、在席する義務はありません。
- 演題番号、画鋏は事務局で用意します。
- 掲示スペース(横90cm×縦120cm)に模造紙一枚(A4またはA3サイズ数枚でも可)でポスターを作成してください。

【ポスター掲示と撤去】

- ポスターは、各自で15日(土)9:00～13:30までに貼ってください。
- ポスターは発表当日17:00以降に、各自撤去してください。撤去されなかった掲示物は、事務局にて処分します。

■ 発表取り消しの場合

不測の事情により発表取り消しや変更をせざるを得ない場合は、必ず書面またはメールにて日本人間性心理学会第37回大会準備委員会事務局(2018jhpc@gmail.com)にご連絡ください。

奨励賞受賞記念講演 理事会・準備委員会合同企画（公開講演会）

奨励賞受賞記念講演

概要は p28 に掲載

「こころの天気」描画法の心理的变化と可能性

日 時：9月15日（土）11：10～12：10

会 場：2号館2階 221 教室

司 会：伊藤 義美（学会賞選考委員会 委員長、人間環境大学）

受賞者：上蘭 俊和（東亜大学）

2017年度の奨励賞を受賞された上蘭俊和氏に、受賞記念のご講演をしていただきます。

理事会・準備委員会合同企画（公開講演会）

オープンダイアログの展開 — 開かれた対話とは —

日 時：9月16日（日）13：20～14：50

会 場：2号館2階 221 教室

講 師：斎藤 環（筑波大学大学院 教授）

司 会：伊藤 義美（人間環境大学）

【講演要旨】

フィンランドで開発された「オープンダイアログ」は、近年急速に注目を集めつつある統合失調症急性期のケアの手法（思想／システム）である。1980年代から実践されており、ほとんど入院治療や薬物治療を行わずに、きわめて良好な治療成績を上げているとの報告がある。

その基本的手法は以下の通りである。発症直後の急性期、患者や家族からの依頼があつてから24時間以内に、「専門家チーム」が結成され、患者の自宅を訪問する。本人や家族、そのほか関係者が車座になって座り「開かれた対話」を行う。この対話は、クライアントの状態が改善するまで、ほぼ毎日のように続けられる。

オープンダイアログの主たる治療対象は発症初期、すなわち急性期の統合失調症であるが、うつ病や依存症、ひきこもりに至るまで、その適用範囲は多岐にわたる。本講演では、オープンダイアログの実践を事例に基づいて紹介し、わが国への導入に際して留意すべき点などについて検討を加えたい。



講師紹介

1961年、岩手県生まれ。

1990年、筑波大学医学専門学群 環境生態学 卒業。医学博士。

爽風会佐々木病院精神科診療部長（1987年より勤務）を経て、2013年より筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。また、青少年健康センターで「実践的ひきこもり講座」ならびに「ひきこもり家族会」を主宰。専門は思春期・青年期の精神病理、および病跡学。著書に「文脈病（青土社）」「社会的ひきこもり（PHP 研究所）」「ひきこもり救出マニュアル（PHP 研究所）」「ひきこもり文化論（紀伊國屋書店）」「生き延びるためのラカン（バジリコ）」「ひきこもりはなぜ『治る』のか？（中央法規出版）」「ひきこもりのライフプラン（畠中雅子との共著）（岩波書店）」「オープンダイアログとは何か（医学書院）」など。

ランチオンセミナー

日時：9月15日（土） 12:20～13:20

軽食付き：無 料

ランチオンセミナー1 ※先着順50名

会場：4号館1階 413教室

「PCA はじめの一步」

坂中 正義 先生（南山大学 教授）

ランチオンセミナー2 ※先着順50名

会場：4号館1階 412教室

「イギリスの最新 PCA 事情」

本山 智敬 先生（福岡大学 准教授）

ランチオンセミナー3 ※先着順50名

会場：3号館1階 311教室

「ディジュリドゥ（楽器）健康法」

小島 敏弘 先生（一般社団法人ディジュリドゥ健康法普及協会 代表）

ワークショップ一覧

ワークショップ

日時：9月14日(金) 10:30～16:30(休憩60分含む)

コース	ワークショップ	講師	会場	ページ
WS1	「感じ方」を変える SAT 療法	宗像 恒次	5号館1階 512教室	30
WS2	臨床現場における実践心理療法 ー心理療法家の存在とその関係による手助けー	渡辺 雄三	5号館3階 531教室	31
WS3	3タイプのエンカウンター・グループ・ ファシリテーターの理論と実際	野島 一彦	3号館1階 311教室	32
WS4	多面的体験支援アプローチ	田嶋 誠一	4号館1階 412教室	33
WS5	心理臨床家の組織へのかかわり方 ー質的研究法を活用しながらー	新田 泰生	3号館2階 321教室	34
WS6	ナラティブアプローチによる実践研究	森岡 正芳	3号館3階 331教室	35
WS7	パーソン・センタード・セラピーの現在	中田 行重	4号館1階 413教室	36
WS8	フォーカシング & フォーカシング指向アプローチ	伊藤 義美	3号館3階 332教室	37

口頭発表一覧

口頭発表Ⅰ(90分)

日時：9月15日(土) 9:30～11:00

No	演題名・発表者	座長	会場	ページ
I-1	学生が参加してみたいと思うエンカウンター・グループ 石田 妙美(東海学園大学)(連名)	中田 行重	5号館1階 512教室	40
I-2	産業領域で行うPCAGIP マネ・ピカ ～マネージャーどうしの内省的対話をもたらすもの～ 成田 有子(株式会社ユナイト)	新田 泰生	5号館3階 531教室	41
I-3	描画フォーカシングで人格変化が生じたと思われる2事例 一箱イメージ書き込み描画法などを用いて— 永野 勇二(学校法人常磐大学)	末武 康弘	3号館1階 311教室	42
I-4	日本型オープンダイアローグのSC 困難例への適用 田中 克江(東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学)(連名)	金子 周平	3号館2階 321教室	43
I-5	音楽を媒介としたコミュニティの形成と参加者の体験について —「わたしたちの自由音楽会」— 村山 尚子(心理教育研究所赤坂)(連名)	尾崎 かほる	4号館1階 412教室	44
I-6	心理臨床家をめざす大学院生の学外カウンセリング体験の 報告と検討 富永 紗央(跡見学園女子大学大学院)	三後 美紀	4号館1階 413教室	45

口頭発表Ⅱ(60分)

日時：9月15日(土) 11:10～12:10

No	演題名・発表者	座長	会場	ページ
Ⅱ-1	セッションの流れをとめてしまった大学生対象の 構成的エンカウンター・グループ 三浦 文子(文教大学人間科学部臨床心理学科)	石田 妙美	5号館1階 512教室	46
Ⅱ-2	若手心理臨床家の指定大学院修了後の歩み ー変化・成長をめぐる PCAGIP を通じた探索的試みー 石倉 篤(YMCA 学院高等学校)(連名)	山田 俊介	5号館3階 531教室	47
Ⅱ-3	地方のフリースクールにおける実態と課題 ーオルタナティブな教育コミュニティの成長過程ー 野中 浩一(心理カウンセラー有限責任事業組合 Cocono、 東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻)	岡 昌之	3号館1階 311教室	48
Ⅱ-4	記憶継承の語りと歴史 ー米国先住民の語りにもみる行為としてのナラティブー 川浦 佐知子(南山大学人文学部心理人間学科)	石川 雅健	3号館2階 321教室	49
Ⅱ-5	高齢者の短歌創作における心理的プロセス 海老原 愛(九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻)	村山 尚子	4号館1階 412教室	50
Ⅱ-6	子どもからみた親の養育態度の評価とフォーカシング的態度の 関連の検討 梅野 智美(山口県警察)	青木 剛	4号館1階 413教室	51

口頭発表Ⅲ(90分)

日時：9月15日(土) 15:50～17:20

No	演題名・発表者	座長	会場	ページ
Ⅲ-1	仲間関係を中心としたリーダレス・エンカウンター・グループの試み 今別府 哲志(西九州大学大学院)	高橋 紀子	5号館1階 512教室	52
Ⅲ-2	定時制高校における生徒間の「異質な他者」受容プロセスについて 遠藤 野ゆり(法政大学キャリアデザイン学部)(連名)	水野 行範	5号館3階 531教室	53
Ⅲ-3	ひきこもり者の“普通”へのとらわれから脱して開眼したひきこもり者の世界観 板東 充彦(跡見学園女子大学心理学部臨床心理学科)(連名)	寺田 道夫	3号館1階 311教室	54
Ⅲ-4	オープンダイアログとパーソンセンタード・アプローチが出会うところに何が生まれるか 大石 英史(鹿児島大学大学院臨床心理学研究科)(連名)	坂中 正義	3号館2階 321教室	55
Ⅲ-5	心理職支援における竹内レッスンを応用した「からだのレベルで話を聴く」意義 自主企画で共有されたもの 春日 作太郎(都留文科大学大学院)	原口 芳明	4号館1階 412教室	56
Ⅲ-6	初任セラピストが自己開示に踏み出す要因と職業的発達に関する探索的研究 草岡 章大(北海道大学大学院教育学院博士後期課程)	伊藤 義美	4号館1階 413教室	57

口頭発表Ⅳ(60分)

日時：9月16日(日) 9:30～10:30

No	演題名・発表者	座長	会場	ページ
Ⅳ-1	大学生を対象としたグループ・アプローチの概観 —この10年の、学生相談領域を中心とした文献レビュー— 吉村 麻奈美(津田塾大学)(連名)	村久保 雅孝	5号館1階 512教室	58
Ⅳ-2	事例提供者のPCAGIP体験のプロセス —1年後のインタビュー調査から— 小野 真由子(関西大学大学院心理学研究科心理学専攻)	村山 正治	5号館3階 531教室	59
Ⅳ-3	自己安定化尺度の作成と精神的回復力および フォーカシング的態度との関連 上西 裕之(関西大学心理臨床センター)	高沢 佳司	3号館1階 311教室	60
Ⅳ-4	宇宙と個人 —その始まり(生)と終り(死)— 筒井 健雄(信州大学名誉教授)	田畑 治	3号館2階 321教室	61
Ⅳ-5	自己生成プロセスワーク体験の検討 西野 秀一郎(跡見学園女子大学附属心理教育相談所)	高松 里	4号館1階 412教室	62
Ⅳ-6	Carl Rogersの応答を再検討する —フォーカシングの立場からみたその機能— 森川 友子(九州産業大学)(連名)	高橋 蔵人	4号館1階 413教室	63
Ⅳ-7	H.S. サリヴァンにおける〈セルフ・システム〉論について 村澤 和多里(札幌学院大学心理学部)	川上 範夫	3号館1階 313教室	64

口頭発表 V (90分)

日時：9月16日(日) 10:40～12:10

No	演題名・発表者	座長	会場	ページ
V-1	ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 大橋 佳奈(跡見学園女子大学人文科学研究科臨床心理学専攻)	松本 剛	5号館1階 512教室	65
V-2	性別違和と自己肯定意識との関連の検討 田淵 基修(香川大学大学院学校臨床心理専攻)	白井 祐浩	5号館3階 531教室	66
V-3	「学びに向かう力・人間性」を育む小学校国語の授業研究 大塚 類(青山学院大学、法政大学キャリアデザイン学部)(連名)	大島 利伸	3号館1階 311教室	67
V-4	日本におけるオープンダイアログの今後の可能性 ーフィンランドでの視察研修からの検討ー 本山 智敬(福岡大学人文学部)(連名)	森岡 正芳	3号館2階 321教室	68
V-5	糖尿病をもつ移民女性のストレスケアと自己肯定感の向上 ～欧州でのシュタイナー絵画療法症例～ 井上 悦子(アントロポソフィーにもとづく絵画造形療法士の会)	三浦 文子	4号館1階 412教室	69
V-6	不登校問題を考えるⅩ ー今日の不登校支援への Broadwin, I.T.(1932)からの示唆ー 寺田 道夫(東海学院大学)	三國 牧子	4号館1階 413教室	70

ポスター発表一覧

ポスター発表(60分)

日時：9月15日(土) 14:40～15:40

No	演題名	発表者	会場	ページ
P-01	気分に関する上下イメージ図式を用いた自己感のずれの検討	田中 啓幹	5号館3階 532教室	72
P-02	Twitterにおける自己開示動機の研究 —自己開示傾向、投稿頻度との関連—	前田 佳菜 (連名)		73
P-03	青年の外見に対する劣等感の受容と自己同一性との関連	宮脇 東風子 (連名)		74
P-04	中学生・高校生を対象とした心理教育プログラムの展望 —中高一貫校での実践の提案—	山口 祐子		75
P-05	他者からのサポートと大学生の獲得的レジリエンスの 低下との関連 ～両者を測定する尺度作成のための研究～	藤 竜大		76
P-06	学生のための学内居場所づくりの試み —学生の世話人の視点から—	清澤 亜希子 (連名)		77
P-07	離人感・現実感消失障害と治療プログラムをつなぐ 「共感的理解」	飯島 博之 (連名)		78
P-08	人はなぜ他人が気になるのか	米村 南海		79
P-09	ベーシック・エンカウンター・グループのファシリテーター 訓練の効果：非無作為化試験	金子 周平 (連名)		80
P-10	動物飼育経験が対人関係にどのような影響を及ぼすのか	神原 寛子		81
P-11	女子青年の語りから見えるもの —親子関係の再構築はどのようになされるのか—	須崎 暁世		82

No	演題名	発表者	会場	ページ
P-12	聞き手自身のあいづちの心理的効果について	吉川 信	5号館3階 533教室	83
P-13	現代青年による発言抑制についての文献研究	藤巻 知夏		84
P-14	自己支援的なユーモアが精神的健康に与える影響について	須永 光		85
P-15	PCAGIP のエンパワメント効果 —被災地の養護教諭を対象として—	内藤 裕子		86
P-16	人間性心理学とは何か：学会誌キーワードからの分析	高橋 紀子		87
P-17	LINE によるコミュニケーション —文字からの気持ちの読み取り—	高瀬 加容子 (連名)		88
P-18	平和・文化的活動による学生のメンタルヘルス向上効果の研究5 —PBL 学習と心理教育の視点における効果④—	福井 完児 (連名)		89
P-19	患者の視点における理学療法士の対応に対する良かった点 および不満点 —より良い医療の実現に向けて—	高井 範子		90
P-20	本邦における感情労働研究概観	藤江 朱音		91
P-21	意味づけ研究の動向	鈴木 栄輝		92

自主企画一覧

自主企画

日時：9月14日(金) 17:00～19:00

No	テーマ	企画者	会場	ページ
PP-01	レジリエンスを高める： コミュニティウェルネス・トレーニングマニュアル	高橋 紀子	5号館1階 512教室	94
PP-02	Gendlin の理論を基盤とした人間性心理学的認知モデルの検討 —基礎心理学と人間性心理学の交差Ⅲ—	宮田 周平	5号館3階 531教室	95
PP-03	EG カフェに参加しませんか in 人間環境大学	法眼 裕子	3号館1階 311教室	96
PP-04	フォーカシング指向心理療法(FOT) 模擬面接記録からの FOT と人間性心理学的アプローチの独自性と共通性の探求	青木 剛	3号館2階 321教室	97
PP-05	PCAGIP 法・ファシリテーター論・実践上の工夫	南 陽子	4号館1階 412教室	98
PP-06	ジェンドリンの「交差」概念を多面的に検討する —生命体における交差現象から言葉と状況との交差まで—	高橋 寛子	4号館1階 413教室	99
PP-07	「自」例を語り合う；ナラティブなアプローチによる 互助的「ケーススタディレビュー」の試み	田代 順	3号館1階 313教室	100
PP-08	和語いのち・ことば・こころ という場 Humanistic Study for Life and Death in Science and Culture	まどかアッセマ 庸代	3号館3階 331教室	101
PP-09	ゲシュタルト派のスーパーヴィジョンの実際	中西 龍一	3号館3階 332教室	102
PP-10	アート体験による自己理解への試み	津島 和美	2号館4階 241教室	103

A series of horizontal dashed lines for writing.

獎勵賞受賞記念講演

「こころの天気」描画法の心理的变化と可能性

上 蘭 俊 和

東亜大学

筆者は「心を天気で表現してみましょう」というこころの天気(土江：2003)に関する研究を行っている。シンプルな教示とこころの天気を描くという楽しさに魅せられて様々な所で実践してきた。当日は、今回評価を受けた研究の一つの、「こころの天気を行うことでどのような変化が生じるのか、また、どんな天気が描かれるのだろうか」という疑問に取り組んだ研究と、「こころの天気」の可能性の一例として筆者の考案した「こころの天気予報描画法」を紹介したい。

こころの天気における心理的变化と描画の特徴

こころの天気群と天気の描画のみを行う天気描画群を設定し比較を行った。セッション前後にPOMS短縮版、セッション前にこころの天気群に体験過程尊重尺度を実施した。次に描画内容を分類し比較した。先行研究としてフォーカシングの効果をPOMSにより測定したものに桑野(2000)がある。がん患者グループでのフォーカシングによるPOMSの変化は(廣瀬1995、広瀬ら1997、Shiraiwa1998)で検討されている。本研究の結果は、以下の3点である。

- ①両群とも気分・感情の変化が認められ、セッションにリラクゼーション効果がある事が明らかになった。変化には、両群に共通する天気を描画する事が重要な役割を果たしていることが示唆された。
- ②こころの天気において、問題との距離をとる態度と、抑うつ-落ち込みに負の相関があることが明らかになった。
- ③両群の描画内容は異なる事が明らかになり、こころの天気群の描画にはフォーカシングの教示の特徴が表れていた。こころの天気では曇りが多く描かれ、雲の中でも黒雲が多く描かれていた。黒雲はフェルトセンスの多様な意味を内包する特徴を表現する際に適切なアイテムであると考えられる。

こころの天気の可能性の一例としての「こころの天気“予報”」

「こころの天気」描画法の臨床的活用の可能性としては、日本心理臨床学会で2014年～2016年にかけて自主シンポが開催され発展を続けている(話題提供者：土江、奥井、上蘭、土井、古御門、足立、野元)。その中で筆者はこころの天気を描いた後に、更にもう一枚「これからの、こころの天気を予報する」ワークを追加した「こころの天気予報描画法」(上蘭：2008)を発表した。当日は、技法の特徴や通常のフォーカシングとの共通点などを紹介する予定としている。

【略 歴】

上 蘭 俊 和(うえぞの としかず)

2000年、久留米大学文学部人間科学科卒業。2005年、東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻修了(学術博士)。現在、東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻/芸術学部トータルビューティ学科准教授、臨床心理士、Focusing trainer。主要論文「長期的フォーカシング体験が日常に及ぼす効果についての一考察—時間的展望の視点から—」(単著『人間性心理学研究』、22巻1号)、「こころの天気における心理的变化と描画の特徴」(単著『人間性心理学研究』32巻2号)。

ワークショップ

WS1

「感じ方」を変える SAT 療法

講師：宗像 恒次

従来の心理療法はどちらかといえば、左脳思考に基づき「考え方」を変えて、感情や行動を変えるというものでした。しかし日本人を含め東アジア人の約80%は不安遺伝子(西洋人は約40%)をもち、情緒安定物質セロトニンの不足から、「もしこうなったらどうしよう」と、常に先々の不安に対し左脳思考で対処しがちです。が、不安な中で左脳思考させると、思い込みや妄想を持ちやすいので、かえってストレスが蓄積され、その解決のためにさらに左脳思考する結果、感情認知困難度や自己解離度を強めることになりがちです。

他方、SAT 療法は、考え方を先に変えるのではなく、「感じ方」を先に変える心理療法です。ストレスに伴う感情痛としての身体違和感を光イメージ刺激、顔表象刺激、リズム刺激、皮膚刺激などを用いて、情緒安定物質セロトニン分泌を高め身体良好感にかえることで、ストレスに対する「感じ方」を前向きに変え、ストレスをしなやかに乗り越えるレジリエンス(復元力)を高めて、問題の自己解決行動を促す技術を提供します。

特徴として、ストレスに伴う身体違和感をもちいて問題の解決を促すので、①クライアントは必ずしも問題(秘密)を言わなくて済むこと、②精神サイン、行動サインのみならず、身体サイン、霊性サインで示される問題の全人的な解決をも促せること、③構造化された(Structured)方法(質問法・傾聴法・回答法・イメージ法など)を使って、ひらめき、連想、直感(Association)という右脳活動による知覚や判断力を促し、自分で自分の問題解決の答えを見出すことを促す技術(Technique)です。

講師紹介：

- 〈経歴〉 1948年生まれ、保健学博士(東京大学医学系研究科)、ハーバード大学医学部客員研究員、国立精神・神経センター精神保健研究所研究室長、筑波大学大学院教授フロンティア医科学専攻、筑波大学大学院教授ヒューマン・ケア科学専攻長、世界保健機関(WHO)薬物依存局顧問・エイズ世界対策局顧問、詳しくはウキペディア「日本の心理学者」
- 〈受賞〉 Outstanding Intellectuals of the 21st Century Award, England, 2010、GREAT MINDS OF THE 21ST CENTURY AWARD, NORTH CAROLINA, USA, 2010、MARQUIS Who's Who in the World, USA, 2010・2011・2012・2013・2014・2015
- 〈現在〉 筑波大学名誉教授、SAT 療法開発者、筑波大学発ベンチャー SDS SAT 研究所長、SAT 療法センター長、ヘルスカウンセリング学会会長、日本ソマティック心理学協会顧問
- 〈著書〉 SAT 療法(金子書房)、感情を変える技術(筑波大学発 SDS 出版部)、燃えつき症候群(金剛出版)、医療・健康心理学(福村出版)、ストレス解消学(小学館ライブラリー)、最新行動科学からみた健康と病気(メヂカルフレンド社)、運命愛は取り戻せる—50歳からの夫婦心理学(講談社)、自分のDNA 気質を知れば人生が科学的に変わる(講談社 + a 新書)、がんのSAT 療法(春秋社)など

定員・参加条件等

定 員：40名

参加条件：テキストとして宗像恒次著「感情を変える技術」(税込み代金千円必要とする)を使用する。

口頭発表

学生が参加してみたいと思うエンカウンター・グループ

○石田 妙美¹⁾、本山 智敬²⁾、大島 利伸³⁾、大下 智子⁴⁾、法眼 裕子⁵⁾、松本 剛⁶⁾、
人間関係研究会

1)東海学園大学、2)福岡大学、3)南山大学附属小学校、4)一宮西病院、5)赤羽田中クリニック、
6)兵庫教育大学

keyword：エンカウンター・グループ、大学生・大学院生

【はじめに】エンカウンター・グループ(以下EG)はお互いを尊重し、自分の可能性を安心して育てていけるような生き方や人間関係を探求していくための場所と時間を提供するものである。しかし近年、参加者が減少してきている。そこで本研究では、大学生・大学院生がどのようなEGなら参加してみたいと思うのかを把握することを目的とした。

【研究方法】2017年10月～2018年1月、人間関係研究会メンバーの講義で、EGに関する講義後、メールフォーム「ふぉーむまん」を利用した無記名のアンケートを実施した。調査内容は、EGに関する認知度、参加の意向、集団や他者との関わりの得手不得手、等である。大学生222人(男54女168)平均20.9歳、大学院生74人(男33女41)平均31.4歳、その他15人(男5女10)平均40.5歳の合計311人から回答が得られた。本研究では、自由記述「どのようなエンカウンター・グループなら参加してみたいか」(311)を分析対象とした。

2018年2月、KJ法の経験のあるメンバー4人で記述内容を分類し小見出しを作成しグルーピングした。さらに2018年3月、前回の作成した小見出しを分布図として整理した。

倫理的配慮として、回答は無記名かつ自由であり、講義成績とも無関係であること、結果は統計的に処理する等を事前に説明した。また、メールフォームにもその旨記載した。

【結果および考察】311人の内、参加したくない、わからないは22人であった。2月の分類では、未知の集団(42)、同質性のある集団(20)、メンバー(41)、テーマ(35)、雰囲気(52)、日程(18)、金額(14)、ファシリテーター(5)、環境等(15)などがグルーピングされた。

3月に作成した分布図の軸は次の8つである。縦軸は自由度を表し、上に上がるほど高く下に下がるほど低い。横軸は日常性を表し、右に行くほど日常性が高く、左に行くほど非日常性が高い。また右上は余暇・レクリエーションの高さを、左下は修行・型・道の高さを表している。さらに左上は創造・クリエイティブ性の高さを、右下は課題達成・トレーニング性の高さを表している。

本研究では、構成的EGや共通性のある、テーマを決めて話し合うグループを求める群、自己開示や自己成長ができるグループを求める群、レクリエーション性の高い気軽さや楽しさを求める群、受容的共感、安心感、話しやすい雰囲気などを求める群、自己との出会い、自己成長を求める群の4群が認められた。

学生たちがEGに求めているものは、日程や金額よりもメンバーや集団の種類、雰囲気に関するものが多く、さらに自己開示や自己成長を求めるものも少なくないことが明らかになった。しかし、日常性の高い、過去に体験したことのあるEGに近いものからストレートに自己開示、自己成長にファシリテートするのではなく、まずレクリエーション要素を高めたり、安心感、話しやすい雰囲気を重視した体験を経由させることが重要なのではないかと考えた。

日本人間性心理学会第37回大会
大会準備委員会

準備委員長 伊藤 義美

事務局長 三後 美紀

事務局次長 石田 妙美

準備委員 石川 雅健

大島 利伸

小島 あかね

坂本 真也

佐竹 一予

猿田 実和

高沢 佳司

高瀬 加容子

高橋 蔵人

田中 史子

柘植 順子

西山 めぐみ

吉武 久美

米澤 由実子

渡辺 雄三

和田 由美子

渡津 恵子

山下 陽平

協賛ご芳名・賛助会員

協 賛

創元社

広告掲載

創元社
北大路書房
名教書
トーヨーフィジカル
伊勢パールセンター
東海学園大学
人間環境大学

展示協賛

創元社
東洋羽毛東海販売
伊勢パールセンター
人間関係研究会

後 援

愛知県教育委員会
岡崎市教育委員会
名古屋市教育委員会

本大会の開催にあたり、多大なご支援をいただきました。
ここにご芳名を記して、深く感謝の意を表します。

2018年9月吉日

日本人間性心理学会第37回大会

準備委員長 伊藤 義美

賛助会員

公益財団法人 関西カウンセリングセンター
株式会社 創元社
株式会社 日本・精神技術研究所
人間関係研究会

日本人間性心理学会第37回大会
プログラム・発表論文集

準備委員長：伊藤 義美

日本人間性心理学会 第37回大会準備委員会：
人間環境大学 岡崎キャンパス 伊藤義美研究室
〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2
TEL&FAX：04-2947-6879
E-mail：spomedforum@gmail.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>











日本文学性心理学会第37回大会事務局



人間環境大学 人間環境学部

準備委員長：伊藤 義美

〒444-3505 愛知県岡崎市本宿町上三本松6-2

E-mail: 2018jhpc@gmail.com